

# 八峰CS通信

平成29年度  
第 5 号  
H29/6/28  
文責 八峰CS  
イラスト 川尻

## コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくり

文部科学省のホームページに「コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議報告書」（平成27年3月）が掲載されています。表題は「コミュニティ・スクー

ルを核とした地域とともにある学校づくりの一層の推進に向けて、全ての学校が地域とともにある学校へと発展し、子どもを中心に据えて人々が参画・協働する社会を目指す

た地域づくり」の視点から、今後の方向性として、「社会総掛かりでの教育」「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」の視点が

「大人が学ぶ場」でもあり、「地域づくりの核」となる」に共感しました。八峰町コミュニティ・スクールも目指す方向は同じです。

### 今後の目指すべき基本的方向性

#### 1 社会総掛かりでの教育の実現

～社会を生き抜くために必要な力の育成のために～

子どもたちの健やかな成長は全ての国民の願いである。現在の学校や子どもたちが抱える課題や、家庭・地域社会が抱える課題等を解決するとともに、子どもたちが豊かで健やかな成長を遂げるためには、改正教育基本法の趣旨にあるように、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠である。

これからの子どもたちには、厳しい挑戦の時代を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生き、未来を切り拓いていく力が求められている。子どもたちの「生きる力」は、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものであり、学校のみで育めるものではない。地域社会とのつながりは、絆を育み、子どもたちの成長に豊かさたくましさを生み出してくれる。子どもたちの確かな育ちを保障するには、信頼できる大人との多くの関わりが不可欠である。人と人との関わりを通して、心は育つ。

また、地域の未来を担う子どもたちの成長は、その地域に住む人々にとっての夢であり希望でもある。地域社会を構成する一人一人が当事者としての役割と責任を自覚し、主体的・自主的に子どもたちの学びに関わり、支えていく中で、大人たちもともに学び合い成長を遂げていく姿が理想である。

このため、それぞれの主体が子どもの教育に関わる重要性等についての理解を深め、学校・家庭・地域の連携・協働を推進するための様々な制度や事業等を一層推進していくとともに、それらを別々に捉えるのではなく、お互いに補完し高め合う存在として一体的に捉え、相乗効果を発揮していくことが必要である。

#### 2 地域とともにある学校づくりの一層の推進

～コミュニティ・スクールを核とした学校改革を果たすために～

学校は、全ての子どもが自立して社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、その基礎となる力を培う場であり、子どもにとって学校は、生活の一部と言える場所である。このことは、地域から見れば、学校は地域社会の将来を担う人材を育てる中核的な場所ということであり、学校は地域社会の中で重要な役割を担っている。社会総掛かりでの教育の実現を図る上で、全ての学校が、地域社会の中で役割を果たし、地域とともに発展していくことが重要であり、全ての学校が「地域とともにある学校」となることを目指して、取組を推進していくことが必要である。

#### 3 学校を核とした地域づくりの推進

～人づくりと地域づくりの好循環を生み出すために～

学校と地域の関係を捉えていく上で大切な視点は、学校が「子どもの学びの場」ととどまらず、「大人の学びの場」でもあり「地域づくりの核」にもなるという視点である。学校を核として、地域の人々が集い、つながり、活動する中で、互いに自立し、助け合い、励まし合い、よりよく成長していくための地域コミュニティが活性化し、再構築につながっていくことが期待される。

また、地方創生の観点からも、学校を核として、地域に愛着と誇りを持ち、志をもって地域を担う人材の育成を図るとともに、子どもとの関わりの中で、大人の学びのコミュニティを創り、地域づくりを果たしていくことが期待される。

（原文は【子供】ですが、秋田県の表記にあわせ【子ども】としました）

らまとめられています。特に、「子どもたちの生きる力は学校のみで育めるものでない」「学校は地域社会の将来を担う人材を育てる中核の場所」「学校は「子どもの学びの場」ととどまらず、「大人の学びの場」でもあり、「地域づくりの核」となる」に共感しました。



3年道徳の授業、発表意欲がすごい（峰浜小）



優しさを込めて人権の花の植栽（八森小）